

## 第3学年 音楽科学習指導案

1 題材 せんりつや音色を味わいながら、歌ったりきいたりしよう

2 教材 「森の子もり歌」 蓬萊泰三作詞 / 菊池雅春作曲 / 佐伯孝一編曲  
「ユモレスク」 ドボルザーク作曲  
「中国のたいこ」 クライスラー作曲  
「白鳥」 サン・サーンス作曲

### 3 指導観

本題材は、旋律の変化を感じ取ったり、楽器の音色を味わったりすることを通して、情景を思い浮かべながら、楽曲の持つ感じを捉えることをねらいとしている。

歌唱教材では歌詞の内容から情景を想像したり、旋律の特徴を捉えさせることで、曲想に合った歌い方を工夫し、深めていく。鑑賞教材では、同じ種類の楽器演奏でもその音色や旋律によって楽曲の感じや、演奏表現が違うことに気付いていく。また、各楽曲において音楽全体が表している情景を想像しながら聴き比べる楽しさが味わえる。

そのために具体的な教材は次の4曲である。

「森の子もり歌」

「ピラロ ルラ」という言葉が新鮮な響きを生み出しており、二つの言葉の間に休符が挿入されることで、2羽の鳥が会話をしているような雰囲気を感じさせる曲で、次のような要素や仕組みによって表されている。

・八長調、2 / 4拍子。A( a a' )B( b a' )の2部形式。Aの部分では旋律が弱起になっており、8分休符が軽やかさを感じさせるのに対し、bの部分では順次進行によるなめらかな音型になっている。また、リコーダーのオブリガートは、単純な旋律ながら効果的な演奏が期待される。

「ユモレスク」

A-B-Aの3部形式。「ユーモア、おどけ」を意味し、バイオリンの曲としてよく知られている。親しみやすい旋律で始まり、Bでは少しもの悲しい旋律が高揚する。フレーズをとらえやすく、「森の子もり歌」で学ぶ旋律の反復と変化や強弱を関連付けて学習することに適している。

「白鳥」

組曲「動物の謝肉祭」の13曲目にあたる。水面をゆらす波紋の感じを表す2台のピアノ（ハープの場合もあるし、独奏曲として演奏される時には1台のピアノ）の伴奏にのって、優雅に水面を滑るような姿で泳ぐ白鳥がチェロで表現され、情景として想像されるような曲である。

曲はト長調、6 / 4拍子、28小節からなる小3部形式でできている。また、最初の1小節は前奏として主音の保続音上にピアノが分散和音を奏でている。

「中国の太鼓」

中国の太鼓のリズムを模したようなピアノの低温の刻みに乗って、バイオリンが急速で細やかな動きで駆け巡る。旋律はいかにも東洋的で舞曲風であり、活気溢れる華やかな雰囲気を通

想さる。中間部では速度を落とし、ト短尾調で哀愁に満ちた旋律が情感たっぷりに奏された後、再び急速な初めの旋律にもどる。「ユモレスク」と同じバイオリンの演奏でもその音色や旋律によって楽曲の感じや、演奏表現が違うことに気付くのに適している。

本学級の児童は、男子11名女子13名、計24名の素直で明るいクラスである。歌が好きな女子がリードして明るい声で歌をうたって楽しんでいる。1学期には「小さな世界」や「ドレミの歌」の学習で旋律を重ねて合唱し、その楽しさを味わっている。また、「まほうのチャチャチャ」をリズムにのって楽しく鑑賞したり、ラテン楽器を演奏したりすることもできた。しかしながら、旋律の変化を感じ取って歌ったり、楽器の音色のよさをあじわったり、聴き比べたりする経験は少ない。

そこで、みんなで歌う楽しさを感じ、いろいろな楽器の音色に興味を持ち始めたこの時期に、曲に合った歌い方を工夫したり、同じ楽器でも奏法で違う世界観を感じたり、同じ旋律でも演奏する楽器の音色によって違った曲想を味わえたりするような感性を広げる経験を持たせたいと考えた。

本題材の指導にあたっては、挿絵や歌詞を参考に情景を想像し、フレーズや強弱に着目して曲想に合った歌い方を工夫すること、旋律を体で表現しながら感じとり、その反復、変化を聴き取ることなどを通して、その楽曲の曲想や楽器の音色を味わわせる。

そこでまず、「森の子もり歌」に出会わせ、ゆったりとした優しい旋律から森の中の静けさやその中に聞こえてくる鳥たちの子もり歌や朝の歌の情景をつかませる。そして、その情景が表現できるように、「ピラロ ルラ」のフレーズの反復や強弱、曲の山場を考えて歌い方を工夫させていく。

次に「ユモレスク」のバイオリンに出会わせ、今までに出会った楽器と比べながら、その音色の特徴を捉えさせる。また、旋律図に合わせて手を動かすことで旋律の流れを体感させ、その旋律が繰り返し（反復）でできたり、変化したりしたところを聴きとらせる。

そして「白鳥」のチェロに出会わせ、バイオリンとの違いに着目させ、その重厚で伸びやかな音色で白鳥の優雅な動きを表していることに気付かせる。また、ピアノの旋律に着目させ、その反復する音色で湖のキラキラ光るさざ波の様子を表していることに気付かせたい。これらを含めてこの楽曲全体が表している情景を想像しながら味わって聴かせたい。

最後に「中国の太鼓」に出会わせ、同じバイオリンでも速度の違いで曲想が全く変わってくることに気付かせたい。また、これまでの学習を活かして旋律が変化した所に気付かせる。

この題材の終末には、楽器の特徴や楽曲の特徴について、気に入った曲の紹介文を書く活動を行う。まだ、聴いたことのない人が聴きたいと思うように伝えるにはどのように書いたらいいか考えながら紹介文を書かせる。

#### 4 題材の目標

楽曲の感じや音色の特徴をとらえ、楽しんで歌ったり聴いたりしようとしている。



(関心・意欲・態度)

旋律やフレーズの特徴をとらえて、曲に合った表現を工夫する。(音楽表現の創意工夫)

自然で無理のない歌い方で歌ったり、声を合わせて歌ったりする。(音楽表現の技能)

楽器の音色の特徴や、旋律の変化をとらえて聴いたり、各楽器が表している様子や音楽全体が表している情景を想像しながら聴いたりする。(鑑賞の能力)

## 5 指導計画（全5時間）

次 時	第1次 表現		第2次（第3～5時） 鑑賞活動【本時 4時】		
	1	2	3	4（本時）	5
教材 「森の子もり歌」 「ユモレスク」 「中国の太鼓」 「白鳥」					
主な 学習活動と内容	<p>「森の子もり歌」の楽曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい旋律</li> <li>・ゆったりとした旋律</li> <li>・「ピラロ ルラ」鳥の鳴き声のフレーズ</li> </ul> <p>情景画の提示 旋律線のなぞり 挿絵や歌詞を参考に、情景を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森の様子</li> <li>・母さん鳥や子どもの鳥の様子</li> </ul> <p>拡大歌詞の提示 「森の子もり歌」の曲想に合った歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返すフレーズの歌い分け</li> <li>・曲の山場</li> <li>・強弱 “夜ふけのもりにきこえる”</li> <li>・曲の反復、変化</li> </ul> <p>拡大楽譜の提示 楽器パートの旋律の感じをつかむ。</p> <p>拡大楽譜の提示 楽器パートと合わせて演奏する。</p>		<p>「ユモレスク」の曲想をとらえながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオリンの音色（既習の楽器と比べて）</li> <li>・旋律の反復・変化</li> </ul> <p>バイオリンの実物提示・演奏 DVD 提示 旋律図の提示</p> <p>「白鳥」の曲想をとらえながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェロの音色（バイオリンと比べて）</li> <li>・チェロの演奏 DVD 提示</li> <li>・チェロとピアノがそれぞれに表すもの（チェロ・白鳥、ピアノ・湖面）</li> </ul> <p>白鳥の動画提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の反復と変化</li> </ul> <p>情景写真の提示 旋律図の提示</p> <p>「中国の太鼓」の曲想をとらえながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律や速度の変化</li> <li>・「ユモレスク」や「白鳥」との聴き比べ</li> <li>・バイオリンの奏法（ピチカートや重音奏法）</li> </ul> <p>気に入った楽曲の紹介文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の特徴や楽曲の特徴を紹介</li> <li>・聴いたことのない人が聴きたくなるように</li> </ul>		
共通事項	<p>フレーズ</p> <p>音色</p> <p>反復・変化</p>		<p>音色</p> <p>旋律</p> <p>反復・変化</p> <p>速度</p>		

6 本時 平成24年 月 日( ) 於：音楽室

## 7 本時目標(4/5)

「白鳥」の曲の感じやチェロとピアノの音色の特徴をとらえ、聴いたり表現したりする学習に進んで取り組むことができる。(音楽への関心・意欲・態度)

楽器の音色の特徴や、旋律の変化を捉えたり、各楽器が表している様子や、音楽全体が表している情景を想像したりして聴くことができる。(鑑賞の能力)

## 8 本時指導の考え方

本時は、「白鳥」を演奏するチェロとピアノの音色の特徴やそれらが表している様子、旋律の変化などから音楽全体が表している情景を想像しながらあじわって聴くことをねらいとしている。

そのために最初は、鳥が海か陸か空にいる曲だということだけ伝えて、曲名を伏せてどんな場所にいるのかを想像しながら鑑賞させる。子どもたちが様々に想像して鑑賞した後に、どこにその鳥がいると思ったかを出させ、その根拠となるように、どんな感じのする曲だったか、あてはまりそうな言葉につけさせ、曲想をつかませる。

その後、『白鳥』という曲名と白鳥が海(水面)にいることを紹介し、白鳥の動画を提示する。そして、本時のめあてを提示する。その際に、楽器名の箇所を穴あきにして提示し、何と何の楽器で演奏されているのかに注意してもう一度曲を聴かせる。前時で学習したバイオリンだと聞き取る児童もいると考えられるので、正解を伝える前に、同じ「白鳥」をバイオリンとチェロで演奏したものを続けて聴かせ、どちらが最初に聴いた曲と同じだったかを捉えさせる。また、2つの曲の感じの違いを出させてバイオリンとチェロの音色を比較させる。そして、チェロという楽器を演奏DVDで紹介し、その大きさもバイオリンと比較させる。そして、チェロのゆったりと上下行する旋律線が白鳥の動きを描写していることを感じ取らせる。

次に湖面をすべるように進む白鳥の写真を提示し、この白鳥はどのように湖面を進むのか尋ね、代表児に白鳥のペープサート进行操作させる。なぜそのように操作したのか理由を尋ね、確かめるためにもう一度曲を聞いてみる。他の児童にも白鳥を表す旋律を手の動きで表現させ、そのゆったりとした旋律に着目させる。また、ピアノ部分の冒頭を取りだして演奏することにより、ピアノ伴奏の反復される分散和音が湖面のさざなみを描写していることを感じ取らせる。

さらに、始めの旋律と同じ旋律が出てきたと思うところで拳手をさせ、そのタイミングで黒板にカードを貼る。また、そのカードとカードの間の旋律にも注目させ、旋律が変化していることに気付かせる。このことで子どもたちが視覚的に旋律の変化と再現(反復)が捉えやすいようにする。

最後に、全体を通して聴き、チェロについて、また「白鳥」を表すこの楽曲全体についての感想を書き、発表し合って学習のふり返りを行う。

## 9 準備

- ・前時までの掲示物
- ・白鳥動画
- ・チェロの演奏DVD
- ・拡大写真(白鳥)
- ・実物バイオリン
- ・情景画(湖・陸・空)
- ・実物大のチェロの絵
- ・『白鳥』のCD(チェロ版、バイオリン版)
- ・白鳥のペープサート
- ・児童用ワークシート

## 10 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の働きかけ (◆は共通事項に関わるもの、 ☆は評価規準)
導入	<p>1 前時学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。</p> <p>(1) ある鳥(白鳥)がどんな場所にいるのか想像しながら全体を聴く。</p> <p>(2) どんな曲想だったか、ワークシートに書く。</p> <p>(3) 「白鳥」という曲名を知り、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>想像させる手がかりとするために海と陸と空の絵を提示する。</p> <p>いくつか曲想を表す言葉を提示し、子どもたちが選びやすいようにする。</p> <p>白鳥が泳いでいる動画を提示し、想像する手がかりとする。</p>
展開	<p>めあて</p> <p>(チェロ)と(ピアノ)の音色が表す、「白鳥」の様子を味わおう。</p> <p>2 チェロの音色が表す白鳥の様子とピアノが表す湖面のさざなみの様子を聴きとる。</p> <p>(1) 何と何の楽器で演奏されているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェロとバイオリンで演奏された「白鳥」を聴き比べる。</li> <li>・チェロという楽器の特徴を知る。</li> </ul> <p>(2) ペープサートや手を使って白鳥の動きを表す。</p> <p>(3) ピアノ演奏を聴き、湖面の様子を想像する。</p> <p>3 曲全体を聴き、旋律の構成をとらえる。</p> <p>(1) 始めと同じ旋律が出てきたら挙手をする。</p> <p>(2) 変化のある旋律を聴きとる。</p>	<p>めあての楽器の名前の部分を穴埋めにし、聴き取りの視点を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ バイオリンの音色と聴き比べることで、低音で落ち着いたある優雅なチェロの音色の特徴を感じとらせる。</li> </ul> <p>チェロの実演 DVD を提示し、バイオリンの実物とチェロの実物大の絵を提示することで、大きさや音色の違いをとらえさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ チェロの音色の特徴を捉え、聴いたり表現したりする学習に進んで取り組んでいる。(関)</li> <li>◆ 児童のペープサートの動きを線図で板書することで、ゆったりとした流れるような白鳥の旋律を視覚的にとらえさせる。</li> </ul> <p>ピアノの旋律だけを取り出して演奏することで、子どもたちがチェロとピアノの音色を聞き分ける手がかりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 始めの旋律の時の同じカードを黒板に提示したり、違う旋律の所に、別のカードを提示したりすることで、曲の中の再現(反復)と変化を視覚的に捉えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 旋律の変化に気をつけて聴くことができる。(鑑)</li> <li>☆ 音楽全体が表している情景を想像して聴くことができる。(鑑)</li> </ul>
終末	<p>4 曲全体を聴いて感想を書き、学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・バイオリンと比べて、チェロの音色は～。</p> <p>・チェロの音色から ～ を思いうかべました。</p> <p>・ピアノのくり返し(はんぷく)のせんりつから ～ を思いうかべました。</p> </div>	<p>チェロについて、また「白鳥」を表すこの楽曲全体についてなど、感想を書く視点を設けて、書く内容を焦点化させる。</p>